

6月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和4年6月2日(木) 11時00分～12時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
 - ② NHK 南相馬報道室 (南相馬記者クラブ会員)
 - ③ 河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
 - ④ 共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)
 - ⑤ 読売新聞社 南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
 - ⑥ 福島民報社 南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)
 - ⑦ 福島民友新聞社 相双支社 (南相馬記者クラブ会員)

計 3 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部長・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 18 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

まず、新型コロナウイルス感染症についてです。

市内では、中学校部活動の練習試合を起因としたクラスターによって、10代を中心に感染が拡大、5月18日には、一日の新規陽性者数として最多となる26名の陽性者が確認されました。また、5月30日には、市内医療機関の職員と入院患者による感染が新たにクラスターとして発表されました。

ここ数日、市内の感染者数は落ち着いてきていますが、しばらくの間は注意と対策が必要だと考えています。市民の皆様には、改めて、マスクを外す機会などのリスクが高まる場面を再確認いただくとともに、正しいマスクの着用や手指消毒などの「基本的な感染防止対策」の徹底、体調に異変を感じた場合の通勤・通学の自粛や、医療機関の受診、ワクチン接種の検討、積極的なPCR検査センターの活用

など、感染拡大防止に向けた対策への取り組みにご理解ご協力をお願いいたします。

次に新型コロナウイルスのワクチン接種についてです。

市では、60歳以上の方と18歳から59歳の基礎疾患を有する方を対象に4回目となるワクチン接種を実施いたします。

対象者には接種を希望するワクチンの種類等について意向調査を順次開始しています。接種の実施時期は、6月18日から8月13日を予定しております。

なお、18歳から59歳の基礎疾患を有する方について、障がい者手帳等をお持ちの方、1・2回目接種時に申告された方は市で把握していますが、それ以外の方は、基礎疾患等確認票の提出が必要となります。

ぜひ、接種の検討をお願いいたします。

次に、大学と連携した人材育成の取り組みについてです。

5月18日に、県内でも有数の集客力を有する南相馬鹿島サービスエリアを中心に地域活性化策を構想する、令和4年度南相馬市プロジェクト研究の開始式及び第1回研究会を開催いたしました。14人の研究員には、事業構想大学院大学の指導の下、11か月全24回の研究会を通じて、市の活性化につながる事業を構想していただきます。

また、5月11日に、復興知事業に関する令和4年度第1回市長報告および分科会が開催されました。復興知事業は、大学の継続的な教育研究活動を通じて、浜通り地域の復興に向けた人材育成を行う事業です。当日は東北大学、福島大学、会津大学の皆様等35名が参加し、ロボットや農業、モビリティ分野における研究及び事業計画等についてご報告いただきました。

次に、市議会臨時会についてです。

5月9日に第4回市議会臨時会を開催いたしました。

3月16日に発生した福島県沖地震で被災した施設の災害復旧に係る補正予算や条例制定など議案7件について、議決を賜りました。

次に、復興工業団地への企業誘致についてです。

5月20日に、アイリスプロダクト南相馬工場の竣工式が行われました。南相馬工場では、80名の新規雇用者の内、72名が福島県出身の方と聞いております。

今後、福島イノベーション・コースト構想の一環として、地域企業のロボット導入に向けた支援等に取り組まれるとのことです。

次に、協定の締結についてです。

5月20日に、災害時における相互支援体制について、「自治体スクラム支援会議における災害時相互援助協定」を締結いたしました。

協定を締結したのは、スクラム自治体である東京都杉並区など9自治体です。

スクラム自治体の皆様には、東日本大震災以降、南相馬市の復興に向けたご支援をいただいております。

また、今年3月に発生した福島県沖地震においても、被災した家屋のり災調査に、応援職員を派遣いただきました。応援職員の皆様にご尽力いただき、5月31日時点で、一次調査4,207件、二次調査87件が完了したところです。

国内の災害が激甚化、頻発化する中で、自治体間における相互支援体制の重要性は増えています。この度の協定に基づき、自治体スクラム支援体制のより一層の強化に取り組んでまいります。

次に、新庁舎建設の基本計画に関する市民説明会についてです。

5月25日から5月29日にかけて、各区で新庁舎建設の基本計画に関する市民説明会を開催いたしました。79名の皆様にご参加いただき、計画の概要等について説明いたしました。今後、説明会でいただいた意見等を踏まえ、計画の策定を進めてまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、福島イノベーション・コースト構想に関する市民勉強会の開催についてです。

本日6月2日に浮舟文化会館で、福島国際研究教育機構を核とした福島イノベーション・コースト構想の推進に関する市民勉強会を開催いたします。市議会議員や地域協議会等の関係団体の皆様にご参加いただき、機構や構想に関する説明や講演会を行います。

現在、福島県で機構の立地選定作業が行われています。市を挙げた受入及び産学官連携の体制構築に向け、市民や関係団体の皆様のご理解、ご協力をいただきながら、より一層の機運醸成に尽力してまいります。

次に、市議会定例会についてです。

6月8日から第5回市議会定例会を開催いたします。今回の定例会においては、新型コロナウイルス感染症や今年3月に発生した福島県沖地震への緊急的な対応に係る補正予算及び条例制定など議案10件、報告6件の提出を予定しています。

詳細はのちほど総務部長より説明いたします。

次に、北泉海水浴場についてです。

7月18日から8月21日まで、2年ぶりに北泉海水浴場を開設いたします。

なお、北泉海浜総合公園内には昨年に続き、臨時キャンプ場とドッグランも開設しております。

感染対策を講じながら、ご家族や友人と夏のレジャーをお楽しみいただければと思います。

次に、相馬野馬追についてです。

7月23日から25日まで、令和4年度相馬野馬追を開催いたします。過日、執行委員会の記者会見でご説明したとおり、今年は3年ぶりの通常開催です。

今年度、初陣を飾る方は6月1日時点で25名を予定しており、その内1名の方は、相馬野馬追への参加をサポートする「相馬野馬追 初陣世話人制度」を利用いただいています。

地域の安寧と繁栄を願う相馬野馬追が、盛大に開催されるよう準備を進めてまいります。

私からの報告は以上です。部長からの報告のあと、皆さんからのご質問をお受けします。

【質疑応答】

質問1：

臨時キャンプ場及びドッグランの開設について、どういったことができる施設で、どのような方々に利用いただきたいか、教えてください。

また、昨年は海水浴場が開設されなかったため、海水浴場と臨時キャンプ場が同時に開設されるのは初めてという理解でよろしいでしょうか。同時に開設することにより期待される相乗効果について、教えてください。

回答1：建設部長

臨時キャンプ場の開設は今年で2年目になりますが、県外への移動に制限がないことが影響しているためか、利用者は昨年より少ない状況です。一方、ドッグランは大変好評で、市民の皆様を中心にご利用いただいています。

回答1：市長

海水浴場と臨時キャンプ場が同時に開設されるのは初めてとなります。

震災前は常設のオートキャンプ場がありましたが、津波で被災したため閉鎖しました。その後、防波堤等が整備されたことから、仮の施設として臨時キャンプ場を開設したところですが、今後、臨時キャンプ場の利用状況等を見ながら、常設施設の整備等についても調査検討してまいります。

海は南相馬市の魅力の一つです。新鮮な魚介類、海水浴、サーフィンのほか、震災前はキャンプも楽しむことができました。昨年からは臨時キャンプ場を開設したことで、少しずつではありますが、震災前の状況に戻りつつあると考えています。

ドッグランについては、かなり広い敷地を整備しました。ペット愛好家の方やキャンプ場にペットを連れて来られた方等にご利用いただければ幸いです。

質問2：

臨時キャンプ場の利用者を、原則として市民に限定していますが、制限を解除する見通しはありますか。

また、海水浴場の新型コロナ感染対策と海水浴場は市外の方も利用できるのか、教えてください。

回答2：市長

臨時キャンプ場の利用制限は、今後の状況をみながら検討してまいります。ただ、感染予防の為、利用者同士の距離を確保する等の対策を講じていることから、収容人数の問題があります。まずは市民の皆様楽しんでいただくことを優先したいと考えています。海水浴場については、利用者を市民に限定していません。

回答2：経済部長

基本的な感染対策を実施いたします。具体的には、ソーシャルディスタンスの確保を促す為、砂浜に一定間隔の目印をつけ、定期的に場内放送を流すほか、手洗いやシャワー設備がある場所の明示、感染防止対策に関する看板の設置を行います。加えて、監視員棟における換気の徹底、監視員の健康チェックを行います。また、利用者へは間接的な接触を避けるため、ごみの持ち帰りを呼びかけるとともに、ごみに触れた際の手洗いの徹底を周知したいと考えております。

質問3：

被災家屋ブルーシート展張講習事業についてですが、この事業は3月16日の地震後にブルーシートを配布したものの、張れる方が不足し、ブルーシートが放置されたケースがあったことを受けて、実施するものでしょうか。

また、講習会の目的は、自宅の対応とボランティアの育成、どちらになるのでしょうか。

回答3：市長

地震の後、市ではブルーシートを配布し、自宅の屋根等に張れない方については、ボランティアや業者の方々等に対応いただきました。現在、ブルーシートの展張を希望される方への対応は完了していると認識しております。

ただ、屋根の修理に約1年以上かかると言われている中、ブルーシートは数か月で劣化し、張り替えが必要となります。被災直後に来られたボランティアの皆様がいつまでも南相馬市で活動する訳ではないため、今後の張り替え作業に備えて講習を実施するものです。

回答3：建設部長

3月16日の地震では、鹿島区を中心に被害が大きく、地元の屋根工事事業者によると、ブルーシートをかける必要があった家屋等は約400件あったとのこと。その内、約100件をボランティアの方が対応し、約300件を市民及び事業者の方が対応しました。

今後、屋根工事業やボランティアにおける人材不足が見込まれるため、市で人材育成事業を立ち上げました。約40名の参加者を見込んでおり、参加者をメンバーとして、ブルーシートの張り替え作業等の支援を行うチームを編成する予定です。

以上